

② コース別学習を設定した「小数」の授業

「小数」の授業においては、一人一人の達成度や学習速度に応じる工夫を行った。全員が同じ問題に取り組むだけでなく、到達点を示し自分の力に合わせてじっくり問題に取り組み、基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。更に、より深い学習に進める児童には深化問題に取り組ませた。また、相互の援助活動を通してお互いの「よさ」に気づくような場を設定した。

ア 援助活動を促し、「よさ」を生かす班活動について

毎時間の練習問題やプリント学習の場面において、リーダーになる児童や交友関係に配慮した意図的な4人の班を構成した。単元の学習を通して同じメンバーで活動した。

練習問題の場面では、別の問題をそれぞれが解き、4人全員が解答を出してから採点させた。その際に、ただ答えを教えるのではなく、答えがでるまでの筋道を一緒に考えるようにさせた。これらの活動により、お互いの「よさ」を生かせるとともに、その「よさ」に気づくと考えた。

イ 個に応じたコース別学習について

学習内容の理解と定着を図る場面で、基本的な小数の加法計算についての学習を受けて、8、9、10時間目に小数の加法・減法計算について、学習速度、達成度に応じたコース別学習を展開した。

「小数村へようこそ！」という36枚綴りの練習問題を配布し、学習の進め方は、右図に示したように三つのコースを準備した。パンダコースは、問題を自力でほとんど解決でき、深化・発展問題へ取り組める児童のためのコース。リスコースは、時々自分だけでは解決できなくなり先生や友達の援助を必要とし、深化・発展問題へも多少取り組みそうな児童のためのコース。ライオンコースは先生や友達の援助を必要とし、基礎的・基本的な内容を達成できる児童のためのコースである。

それぞれのコースは学習を進めながら随時学習コースの変更ができるようにした。三つのコースは、色別のカードになっているので、教師は、それぞれのコースの特性に応じて個別指導にあたる

ことができた。

また、計算の仕方が分からないときや、答えが合わない原因をつかめないとき、班の中で教え合ったり、先生に聞いたりするようにさせた。

この友達同士の教え合いの中でお互いの「よさ」が生かせると考えた。

